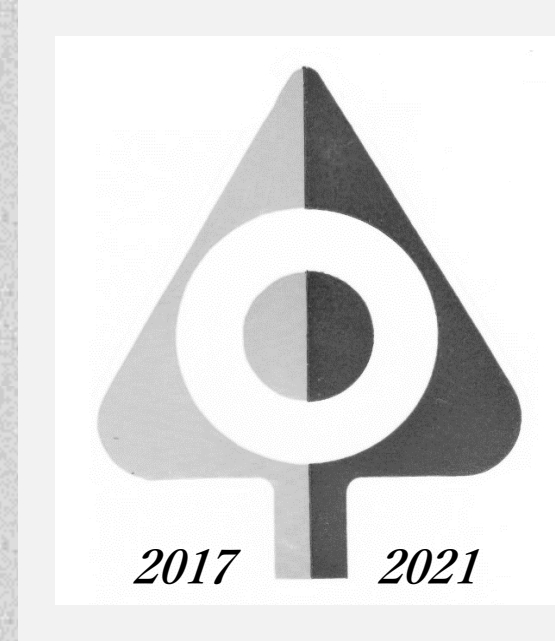


美術館とともに

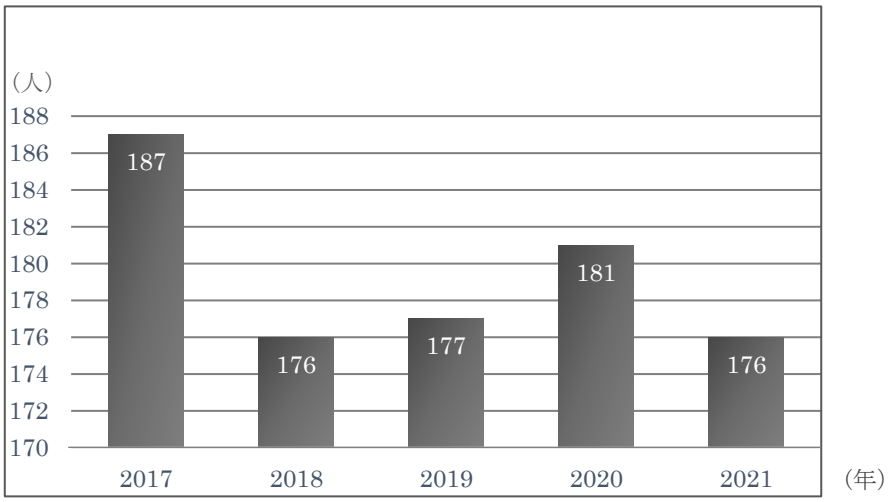
ボランティア活動5年間のあゆみ

IX

ボランティアの推移

2017(H29)年～2021(R3)年
各年4月1日現在

★ ボランティア数の変化 ★



★ 7部の人数構成 ★

・事:事業部　・広:広報部　・売:売店部　・解:解説部　・資:資料部　・研:研修部　・特:特別活動部

40 周 年 記 念 事 業

2017(H29)年は協力会法人設立から40周年を記念して、様々な事業がおこなわれた

5月

・美術研修旅行　第1弾　5月　「秋田、青森」(事業部)
・美術研修旅行　第2弾　11月　「九州」(事業部)
・美術研修旅行　第3弾　2018年5月　「道南」（事業部）

8月

・近美40周年式典において協力会に感謝状の授与

11月

・近美特別展「近美と協力会の40年」

・池澤夏樹氏による記念講演
「古代の美術と現代の美術ミュージアムから始まる」

・「図録のみの市」

・ボランティア活動員永年表彰式
(10年以上が対象)

・クラシックユニットCOTOHAによるロビーコンサート

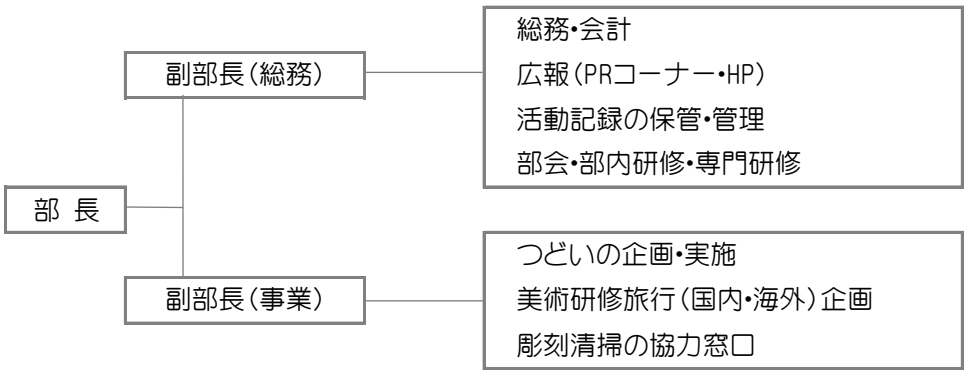
1月

・会報「アルテピア」
特別号発行
(広報部)

・彫刻家ダム・ダン・ライ氏を講師に迎え親子アート・クラブ(特別活動部)
～親子で作る流木アート～近美2階ロビーに作品を展示

＊ 事　業　部 ＊

■　組織と運営体制　■



■　活動の目的　■

美術館に関心のある人たちの交流と親睦を図る事業を行う。
道民の美術の知識と教育の向上を図るための事業の企画・立案・実施をする。また、美術館事業の担当窓口としての協力活動を行う。

■　活動内容　■

○つどい

「つどい」とは北海道美術館協力会が行う総会後の立食パーティの事業。
美術関係者、美術館、協力会会員及びボランティアの親睦を目的として、毎年総会後に開催されている。
平成6年より事業部が担当し、開催に向けて前年度から理事、事務局、部長副部長会の協力、指導のもと事業内容を検討、企画実施している。
特に歓談時のアトラクションは、プロの和・洋楽演奏や踊り等趣向を凝らすようにしている。

年度	回	月日	行事内容	参加者数
2017	34	6/8	津軽三味線演奏	105
2018	35	6/5	トランペット演奏	109
2019	36	6/11	フラメンコ演奏と踊り	108
2020	コロナ禍のため中止			
2021				

○彫刻清掃

2010年度より道立近代美術館の事業活動への協力として、年2回（春・秋）の美術館所蔵野外彫刻清掃が始まった。美術館学芸員、美術館協力会理事、7部ボランティア部員の共同作業で毎回20数名の参加で彫刻清掃の目的のみならず、各部との交流の場にもなっている。2021年はコロナ禍で中止。

年度	月日	参加者数	月日	参加者数
2017	6/16	14	9/28	13
2018	6/22	20	10/17	20
2019	6/12	24	10/9	大雨のため中止
2020	コロナ禍のため中止		9/30	15

＊事　業　部＊

■　美術研修旅行　■

美術に関する知識と教養の向上を図る事業の一つとして国内外に研修旅行が行われており事業部は企画にあたる。参加対象は会員及び一般にひろく参加をよびかける。

・部内で情報収集を行いアンケート等を参考に立案し、事業推進委員会で協議の上決定する。
・業者への見積もり依頼し決定、実施
・海外研修のみ学芸員の講義設定
・アンケートの作成と集計

○国内美術研修旅行

日本の美と文化に触れるこの旅行の企画は、国内の美術館・博物館等の特別展を含めた情報収集を早くから始める。旅行先は今までの実施状況を参考にしたサイクルで検討する。

旅行内容は美術や文化に限らず、その土地の食・自然・歴史・風土を楽しむコースにしている。この趣旨は多くのリピーターの参加を実現している。

しかし、2020・2021年はコロナ禍の影響を受け実施が見送られた。

国内美術研修旅行　実施状況

年度	回	旅行企画名	実施日	参加者数	訪問先（見学美術館）
2017	34	アルテピア設立 40周年事業 「秋田･青森美術館と郷土に触れる4日間」	5/29 ～ 6/1	26	横手市:秋田県立近代美術館　仙北市:平福記念美術館 角館市:武家屋敷　秋田市:鉱業博物館、秋田市立千秋美術館、秋田県立美術館、民族芸能伝承館 弘前市:弘前城、弘前市立博物館　青森市:常田健土蔵アトリエ美術館、ねぶたの家ワ･ラッセ、棟方志功記念館 十和田市:十和田市現代美術館、青森県立美術館 青森県立郷土館
	35	アルテピア設立 40周年事業第2弾 「ガンバレ！九州 熊本･大分･福岡 5日間」	11/14 ～ 11/18	26	大分市:大分市美術館、大分県立美術館　臼杵市:臼杵石仏　別府市:竹細工伝統産業会館　由布市:湯布院自由散策　阿蘇郡小国町:坂本善三美術館 熊本市:熊本市現代美術館、島田美術館　大宰府市:九州国立博物館　嘉麻市:織田廣喜美術館
2018	36	「新潟･富山めぐりの旅4日間」	10/10 ～ 10/13	24	新潟市:北方文化博物館、新潟市美術館、新潟県立万代島美術館、弥彦の丘美術館　燕市:藤次郎ナイフギャラリー　上越市:樹下美術館　糸魚川市:フォッサマグナミュージアム　滑川市:ほたるいかミュージアム 富山市:富山県美術館、富山県水墨美術館
2019	37	「福井･滋賀の美術旅4日間」	5/14 ～ 5/17	30	福井市:福井県立美術館、福井市美術館　池田町:能面美術館　鯖江市:めがねミュージアム　長浜市:渡岸寺観音堂、海洋堂フィギュアミュージアム 彦根市:彦根城博物館、彦根城、玄宮園　近江八幡市:安土城郭資料館、安土城天守信長の館　守山市:佐川美術館　大津市:三井寺、大津絵美術館、膳所焼美術館　甲賀市:MIHOミュージアム

＊ 事　業　部 ＊

道内美術研修旅行　実施状況

年度	回	旅行企画名	実施日	参加者数	訪問先（見学美術館）
2018	12	40周年事業第3弾 北海道150年協賛 事業「道南四都物語 四日間」	5/9 ～ 5/12	18	伊達市:噴火湾アートビレッジ　江差町:法華寺、 姥神大神宮　松前町:松前城資料館　函館市:道立 函館美術館、函館市博物館　大沼町:ストーンクレイ ジーの森、木村捷司記念室

○海外美術研修旅行

世界の名立たる美術館・博物館を始め、歴史的建造物等をたずね歩く「美の探訪」である。その時代、そこに息づいた作家たちと歴史の背景に触れながら存分に芸術を味わう旅となっている。

しかし、2017・2018年は不穏な国際情勢、2020・2021年はコロナ禍の影響を受け実施見送られた。その中で平穏な2019年はスペイン訪問を実施した。

海外研修旅行　実施状況

年度	回	旅行企画名	実施日	参加者数	訪問先（見学美術館）
2019	35	美の探訪 スペインの美術館 ・博物館と世界遺 産を訪ねて	10/23 ～ 11/1	25	バルセロナ:サグラダファミリア教会、グエル公園、 バルセロナ現代美術館、ベース・エレメント・アーバン ・アートギャラリー、ピカソ美術館、カサ・バトリョ、 ガウディ・エキシビジョンセンター、ミュージアム・オブ・ モダニズム、ミロ美術館、カタルーニャ美術館 テラッサ:ロマネスク教会群　フィゲラス:ダリ美術館 マドリード:プラド美術館、ソフィア王妃芸術センター 王宮、国立考古学博物館、ティッセン・ボルネミッサ美術 館、ソローリャ美術館、エル・グレコ美術館、サンタ・ クルス美術館、カテドラル、サント・トメ教会

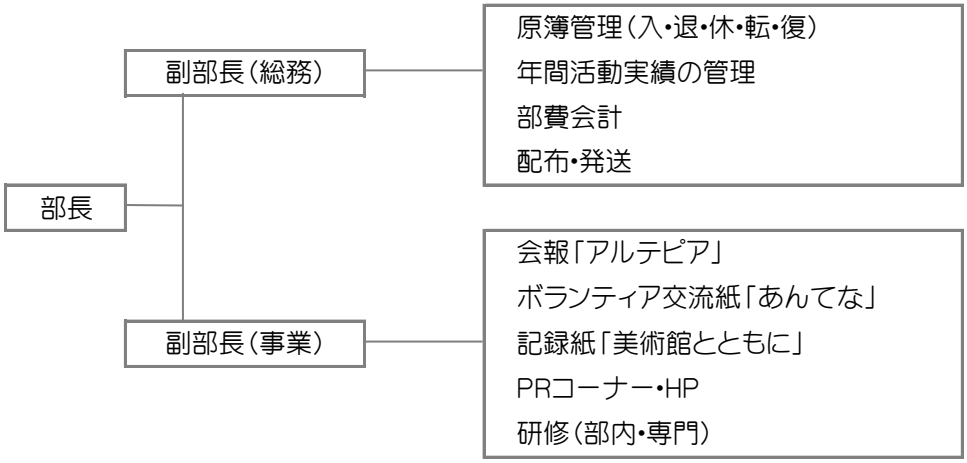
■　部内研修　■

部員の美に対する鑑賞力を高める目的及び、自らの学習意欲の継続に繋げるための研修を行っている。お互いの感想、意見交換を行い、日々の事業部活動をするうえで欠かせない、信頼と尊重し合う関係を築くきっかけとなっている。

年度	開催日	研修先・内容	年度	開催日	研修先・内容
2017	8/10	旭川美術館:上村松園・松篁	2020	6/17	芸森:蜷川実花展
	12/1	芸森:木彫家藤戸竹喜の世界		8/27	本郷新記念札幌彫刻美術館:船越桂展
	3/14	京王プラザ南園例会		9/10、11	釧路市立美術館:フェルメール展
2018	5/23	小樽芸術村:ニトリ美術館		3/25	HOKUBU絵画館:色彩の積極的排除から…
	3/28	HOKUBU絵画館:白神政史他	2021	9/21	芸森:キース・ヘリング展
2019	7/24	芸森:テオ・ヤンセン展		11/17	旭川美術館:山下清展
	10/15	芸森:バルセロナ展		2/24	HOKUBU絵画館:アジアの中の日本
	3/19	HOKUBU絵画館:坂本朝他			

＊広　報　部　＊

■　組織と運営体制　■



■　活動の目的　■

協力会会員、法人、団体企業へ道立美術館等の展覧会情報を紹介し、美術への関心を深めてもらい、協力会の事業やボランティア活動を紹介することで、協力会への理解を深めてもらうこと。

■　活動内容　■

・会員向け広報誌、会報「アルテピア」を2回発行
・ボランティア交流紙「あんてな」を年3回発行
・ボランティアの活動をまとめた記録紙「美術館とともに」を5年ごとに発行
・近美、三岸のポスター、チラシの仕分け・近美との窓口・配布台帳の管理・各部への対応
・会報、協力会関係書類、近美と三岸のカレンダー等を年2回発送

○会 報「アルテピア」

・美術への関心を深めてもらい、美術館へ足を運んでもらうことを目的に、年2回道内8館の展覧会情報を主に掲載している。

・2020年に新型コロナウイルスによるパンデミックが起き、美術館運営やボランティア活動に厳しい制限が課せられた。
そのため会報が縮小されることもあったが、発刊休止は免れた。

会 報 「アルテピア」

年度	号数	主　な　掲　載　内　容
2017	71	木彫家　藤戸竹喜の世界　（芸森）
		高倉健　（帯広）
	特別号	法人設立40周年記念行事
	72	明日へのアーティストたちとともに　（三岸）
2018	73	森のささやきが聞こえますか　（釧路芸）
		NATURE＆ART木をめぐる美術　（旭川）
	74	カラヴァッジョ展　（近美）
2019	75	没後20年　岩橋英遠展　（旭川）
		宇宙象　嶋崎誠展　（釧路芸）
	76	蜷川実花展　（芸森）
2020	77	各美術館からひとこと－展覧会の案内
	78	水木しげる魂の漫画展　（帯広）
2021	79	美術をまるごと楽しもう！　（函館）
		アール・ヌーヴォー、アール・デコのガラス　（近美）
	80	ライデン国立古代博物館所蔵古代エジプト展（近美）

＊広　報　部　＊

○ボランティア交流紙「あんてな」

・ボランティア間の紙上交流、情報発信を目的に各部の協力で紙面を構成している
・52号より、4ページだてから2ページに変更、印刷会社を通さず広報部で作成

ボランティア交流紙「あんてな」

年度	号　数	内　　容
2017	52号･53号･54号	･年間3回発行 1回:新入部員から一言 2回:「ボランティアと私」「いきいきHASSIN」 3回:各部から「1年を振り返って」等
2018	55号･56号･57号	
2019	58号･59号･60号	
2020	61号･62号･63号	
2021	64号･65号･66号	

○記録誌「美術館とともに」(通称あゆみ)

・2017年度　Ⅷ号発行　　(5年ごとのボランティアの活動記録誌)
広報部が中心となり、7部の担当者と企画、編集を行う。Ⅷ号は紙面作成まで全て行った。

○PRコーナー・ホームページ

・活動の様子を近美の来館者向けに設置した掲示板、2020年に女子トイレ横から通路側に移動する。
展示替えは各部で適宜行うが、運営管理は広報部が担当し1年ごとに各部のパネル位置の移動も行う。
・HPでは会報「アルテピア」のPDFデーターを掲載。Facebookでは活動の様子など適宜更新。

○部 内 研 修

・部員の視野を広げること、技量を高めることを目的として計画的に実施している。
　文章教室とデジカメ研修は会報誌発行の基本であるため、事例研の形で学んでいる。
・2020年はコロナ禍により、ボランティア活動の制限があったため、ほとんどの活動を自粛せざるを得ず、部内研修を実施することができなかった。

年度	月	内　　容
2017	7	旭川美術館「上村松園･松篁･淳之展」
	10	文章教室(道新)
	1	デジカメ研修(道新)
2018	9	江別ｾﾗﾐｯｸｱｰﾄｾﾝﾀｰ「多彩なる近代工芸の煌めき」
	12	文章教室(講師:安藤氏)
	1	デジカメ研修
2019	8	芸術の森美術館「テオ･ヤンセン展」
	9	「しりべしミュージアムロード」ツアーに参加
	1	デジカメ研修
2020		無し
2021	11	文章教室
	1	デジカメ研修

○専 門 研 修

・取材実習や編集作業を体験することと、発送作業や仕分け作業、部内研修に参加することで、広報部の活動を大まかに把握してもらうことを目的としている。

回	カ リ キ ュ ラ ム
1	オリエンテーション　作文課題の説明
2	ホームページ､PRコーナーの説明
3	ポスター配布作業
4	発送作業
5	取材実習(ギャラリーツアー､誘い等)
6	デジカメ研修(売店商品撮影など)
7	会報「アルテピア」についいて
8	交流紙「あんてな」について
9	文章教室(広報部員又は外部講師による)

＊広　報　部　＊

ポスター配布状況

年	月	展　覧　会　内　容
2017	3	・開館40周年記念「大原美術館展」II
	5	・「レオナルド・ダ・ヴィンチとアンギアーリの戦い展」　・近美コレクション「開館40周年記念第1期名品展」 ・三岸好太郎美術館「小樽芸術村×mima」
	7	・開館40周年記念/道新130周年記念「ゴッホ展」　・近美コレクション「開館40周年記念第2期名品展」 ・三岸好太郎美術館「札幌国際芸術祭2017」
	11	・開館40周年記念　追悼特別展「高倉健」　・近美コレクション「開館40周年記念ワンダー☆ミュージアム」「第3期名品選」
	計	総数1053枚　/　作業延べ人数　455人
2018	1	・STV創立60周年記念「わだば、ゴッホになる」棟方志功展
	3	・北海道150周年「ブリヂストン美術館展」 ・近美コレクション「北海道150周年名品選」　・三岸好太郎美術館「特別展」
	6	・北海道150周年、東京富士美術館開館35周年秘蔵選「日本の美　百花繚乱」 ・近美コレクション「北の美術館群像」　・三岸好太郎美術館　「フランク・シャーマンコレクション」
	10	・北海道150周年「京都国立近代美術館日本画工芸名品展」 ・近美コレクション「北海道150周年名品選」　・三岸好太郎美術館「三岸好太郎を追いかけて」
	11	・北海道150周年「絹谷幸二」　・近美コレクション「北海道150周年名品選」 ・三岸好太郎美術館「三岸好太郎セレクション」
	計	配布総数　1456枚　/　作業延べ人数　650人
2019	1	・生誕70年・没後40年記念「深井克美展」
	3	・生誕100年・没後20年「相原久一郎の軌跡」　・近美コレクション「風雅の人蠣崎波響展」/ 「拝啓、藤田嗣治様」　・三岸好太郎美術館「道化に魅せられて」
	5	・「東山魁夷　唐招提寺御影堂障壁画展」　・三岸好太郎美術館「まぼろしミギシとともに」
	7	・「カラヴァッジョ展」　・近美コレクション「バック・トゥ・ザ・フューチャー」/「新収蔵品展」 ・三岸好太郎美術館　「mima-no-me　＃みまのめ＜VOL.5＞」
	11	・「アイヌの美しき手仕事」　・近美コレクション「友田コレクション西洋版画の名品」/「瀧川嘉子展」
	計	配布総数　1232枚　/　作業延べ人数　561人
2020	1	・「北海道151年のヴンダーカンマー」
	7	・近美コレクション「新収蔵品展」/「山川草木」 ・三岸好太郎美術館「太陽の森ディマシオ美術館コレクション」
	9	・「神田日勝　大地への筆触」/「ヴィジュアル・ガストロノミー」
	10	・デビュー50周年記念「諸星大二郎展」　・近美コレクション「日本の美」
	計	配布総数　880枚　/　作業延べ人数　392人
2021	4	・「国貞　広重　国芳コレクション」　・近美コレクション「新収蔵品展」
	計	配布総数　186枚　/　作業延べ人数　84人

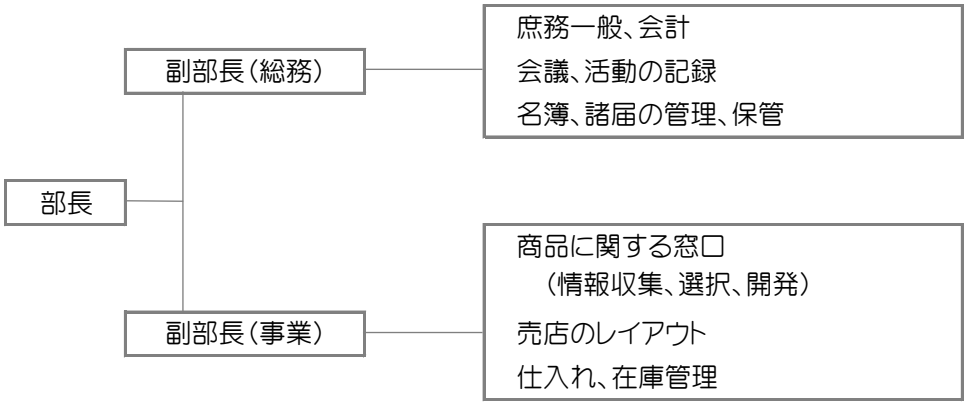
2019年～2021年にかけては、コロナ感染の影響で予定通りに展覧会が開催されず、ポスター配布も変更され特に2021年は感染拡大の影響を考慮して1回のみの配布となった。

編集会議の様子

ギャラリーツアー取材風景

＊売 店 部＊

■　組織と運営体制　■



■　活動の目的　■

・美術関連商品の販売を通し、美術館のPR、来館者にとっての安らぎの場を提供する。
・販売収益は協力会活動資金の一部とする。
・道内作家の作品を広く紹介する。

■　活動内容　■

・商品の仕入れ、販売、補充、在庫管理
　商品をガラス・書籍・はがき・アクセサリー・その他と5品目に分類、各曜日班（火、水、木、金）と三役が分担担当
・商品番号（PUL）、値段付け
・店頭レイアウト、特店の準備と片付け
・協力会会員の入退会手続き
・前売り券販売
・HP、PRコーナーの作成
・ポスター配布

商品会議において情報共有と新商品仕入れ等の話し合いを行い、常勤と共により良いミュージアムショップを作り上げている。

■　専門研修　■

・売店部員養成のためテキストに沿って新人研修を行う。
・部員としての心構えと店頭実務を習得する。

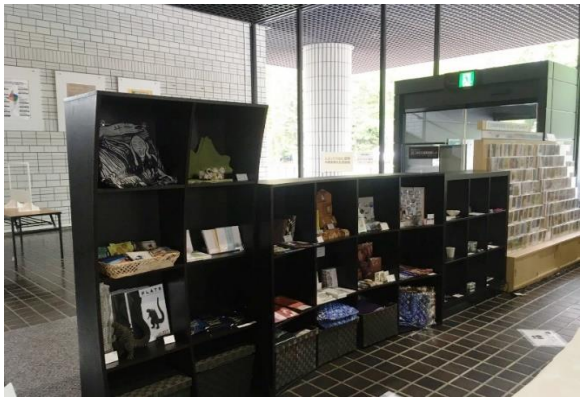
回	研 修 内 容
1	売店の運営と活動、売店のレイアウトと商品見学
2	会員証の作成、テプラ･ラベラーの使い方
3	レジ操作、領収書、クレジットカードの扱い方 業務と仕事の流れ
4	売店実習（実際の接客と実務）

＊売 店 部＊

特別展商品陳列準備

年　度	月	主　な　展　覧　会
2017	4	「大原美術館展」、「シャーマンコレクション」
	6	レオナルド・ダ・ヴィンチ「アンギアーリの戦い」
	7	「図録蚤の市プレ」
	8	「ゴッホ展」
	10	「キンビでばくはつ」、「天彗50周年展」、棚卸し
	11	「高倉健展」
	2	「棟方志功展」
2018	4	ブリヂストン美術館「石橋コレクションの精華」
	7	「日本の美、百花繚乱」
	9	「極と巧　京のかがやき」
	12	「絹谷幸二展」
	2	「深井克美展」
2019	4	「相原求一郎の軌跡」
	6	「東山魁夷　唐招提寺御影堂障壁画展」
	8	「カラヴァッジョ展」
	11	「アイヌの美しき手仕事」
	1	「北海道151年のヴンダーカンマー」
2020	5, 6	「キスリング展」
	9	「神田日勝展」
	11	「諸星大二郎展」
2021	2～4	「猫まみれ展」
	4	「国貞、広重、国芳コレクション」
	7	「へそまがり日本美術」
	9	「よみがえる正倉院宝物」
	11～1	「富野由悠季の世界」

2020～2021年にかけコロナの影響により展覧会が中止・延期になり売店ボランティア活動も休止



感染対策に留意し、売場を大きく模様替え

″ソーシャルディスタンス″
店内の出入り口を一方通行

＊ 売 店 部 ＊

売り上げ状況

年　度	売上金額　（円）	主　な　特　別　展	売　上 ベストテン
2017	41,962,716	大原美術館展、シャーマンコレクション レオナルド・ダ・ヴィンチ展 ゴッホ展 天彗50周年展 近美と協力会の40年 高倉健展 棟方志功展	5位 7位 3位 10位
2018	48,660,198	独立展北海道展 ブリヂストン美術館展 東京富士美術館展 京都国立近代美術館展 さわらびかい 絹谷幸二展 深井克美展	 2位 1位
2019	36,421,585	相原求一郎の軌跡 東山魁夷展 カラヴァッジョ展 北海道書道展 アイヌの美しき手仕事 北海道151年のヴンダーカンマー	6位 4位 8位 9位
2020	17,103,673	キスリング展 古代エジプト展（コロナの為中止） 神田日勝展 諸星大二郎の世界展 札幌国際芸術祭2020（コロナの為中止）	
2021	11,712,548	猫まみれ展MAX 国貞、広重、国芳コレクション 小原道城・書と水墨画個展（コロナの為中止） へそまがり日本美術 よみがえる正倉院宝物 富野由悠季の世界 山口南艸の書とわか葉会門流展	

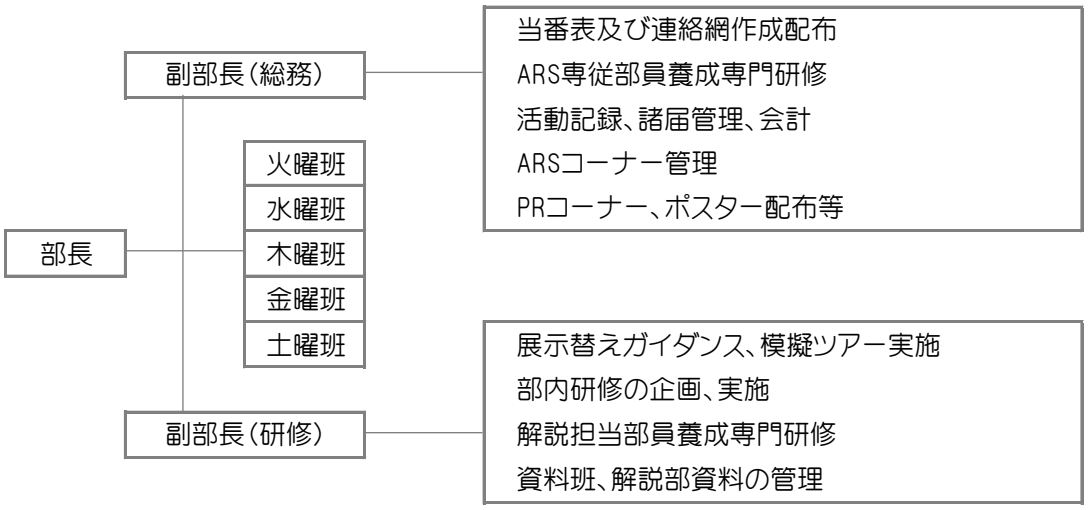
■　部内研修　■

・2020、2021年度はコロナの為中止
・部員の親睦と美術の知識を広める。

年　度	月	研　修　内　容
2017	9	小樽　　ニトリ美術館
2018	7	岩内　　荒井記念館、西村計雄美術館
2019	5	富良野　後藤純男美術館、ファーム富田

＊　解　説　部　＊

■　組織と運営体制　■



■　活動の目的　■

来館者に美術作品への関心や興味を持ってもらい、美術館により親しんでもらえるようにする。

■　活動内容　■

○作品解説（ギャラリーツアー）

・道立近代美術館の展示室A 1・2階で開催される「近美コレクション」展の作品解説
　休館日及び日曜・祝日を除く火曜～土曜の11:30、13：00、14：00の一日3回、各回30分

・道立三岸好太郎美術館の作品解説
　休館日及び日曜・祝日、イベント開催日を除く毎日13：00～15：00までの間、来館者の希望に応じ実施
　1回30分

・両館の定時の作品解説の他、定時外を含む団体ツアーにも対応

○アート・レファレンス・サービス（ARS）

・来館者の美術や作家、また開催中の特別展やコレクション展、施設などに関する質問への対応
　休館日及び日曜・祝日を除く火曜～土曜日の10：30～15：00

・道内外の美術館や博物館のポスターの掲示、ちらしファイルの整理と保管

・ARSに所蔵している図録や全集などの図書整備、管理保管
　現在、ARSには約1650冊余りの図書を所蔵している。主な内訳は以下の通り

近代美術館図録	303冊	旭川美術館図録	113冊	函館美術館図録	130冊
帯広美術館図録	112冊	釧路芸術館図録	39冊	芸術の森美術館図録	28冊
一般図書	178冊	三岸美術館	42冊	全集	303冊

○養成専門研修

・解説部入部希望者への研修。解説担当希望者とARS専従希望者に分かれて現部員が行う。
　期間は9月から3月までの半年間で週1回、22回程度行う。

○部内研修

・現部員の資質保持と向上を目的として館外研修や講演などを計画、実施

＊　解　説　部　＊

■　新体制でスタート　■

30年近く続いていた当番体制の見直しを2015年から検討し始め、決定までに2年をかけて話し合い、2017年から右図のように新体制でスタートした。

・日曜日は、近美の解説及びARSは休みとする。
（三岸好太郎美術館は、2018年から実施）

・班体制を火曜班～土曜班とする。

・解説は、火曜から土曜まで1階が2回、2階は1回とする。また、1階を2人体制にしても良い。

・ARS業務は、10：30～15：00までとする。

一日の当番の流れ

火　曜　日　～　土　曜　日

	ARS	解　説	三岸
10:30	ARS専従		
11:00	↓	1階表示板設置	
11:30	↓	1階解説	
12:00	↓		
12:30	↓	2階表示板設置	
13:00	2階担当者	1階解説	解説
13:30	1階担当者		随時
14:00	↓	2階解説	↓
14:30	2階担当者		↓
15:00	終了		終了

見直しの一番の理由は部員数の減少で、ボランティア活動を全員がゆとりを持って行うために、曜日班を一つ減らすことにした。また、ARSの終了時刻については、15時以降のARS利用者、特に質問をする人が少ない傾向にあり、1年間調べてそれが実証されたことから15時に変更した。

これらは、美術館のギャラリーツアーに関係することでもあるため、学芸員の方々との話し合いを何度も行い、「ボランティアの方々が、活動しやすいように」との温かい言葉で実現することができた。

毎日の報告書の受け渡しの仕方も、それまでアルテピア事務局に直接届けたり受け取りに行っていたりしていたのを、事務局の移転に伴いARSでの受け渡しに変更していただいた。

■　専門研修と部員数の移り変わり　■

専門研修は、解説部希望者に対して約半年間行われる。次年度の4月から独り立ちできるように、現部員が研修スタッフとなって指導している。

右図でわかるように、新入部員が減少している。以前は多数の希望者がいて、全員に作文の提出と、それを暗記して発表することも行っていたため、研修を受ける前に希望を取り下げる人もいた。

現在は作文の提出等はせず、希望者全員が研修を受けられるようにしている。また、ボランティア全体の希望者が減少していることから、近年はそれまで必修だった美術講座を受けなくてもボランティアに応募できるようになったので、希望者が増えることを期待している。

新入部員数　（人）

年度	解説	ARS	全体	退部
2015	1	1	51	8
2016	0	2	45	6
2017	2	0	41	2
2018	2	0	41	1
2019	1	0	41	1
2020	6	2	48	1
2021	2	1	50	2

解説担当専門研修は、作品の資料を基にシナリオを作成・暗記し、1週間後の研修の場で発表する。北海道の美術、エコール･ド･パリ、日本画、ガラスなど各分野を取り上げながら徐々に作品数と時間を増やし、最終的に、30分解説をするまでに持っていく。最後に学芸員立会いの下、審査を受ける。その後、ARS業務の研修を受け新年度から解説デビューする。

ARS専従専門研修は、館内外施設の把握から所蔵品の知識、お客様の対応の仕方、ARS閲覧図書の把握と整理・管理など研修内容は幅広い。現部員との現場実習の後、新年度からARSデビューする。

＊　解　説　部　＊

■　ギャラリーツアー　■

解説担当者は平日(火～土)常設展示室(展示室A)及び三岸美術館にてギャラリーツアーを行う。ツアーの為に次の準備を行う。

①学芸員による「展示替えガイダンス」

②予め用意された「展示プラン、展示品リスト」を元に、入部2年目までの資料係は作家別の資料の中から抜き出して分厚い資料のファイルを作成する。

③「展示替えガイダンス」後、各自が必要分コピーし、その資料を元に各々のシナリオを作成する。

④曜日班でシナリオ検討会を行った後、各自のツアーコースで初日を迎える。

近年、テーマ別の展示から「収集の柱」に焦点を当てた名品選の展示が多くなり、系統立てて集められた作品の素晴らしさや有り難みを再確認する機会となっている。

また、2018年には「アートギャラリー北海道・北海道150年事業」の一環で、道内の他の美術館との交流展示が始まった。

近代美術館でも、小樽芸術村のガラス、フランク・シャーマンコレクションやディマシオ美術館の作品展示が2階で行われ、通常のギャラリーツアーは1階だけということもあった。

また、2020年の3月からコロナ禍となり、美術館の休館などで、解説やARSの業務が再開するまで5か月を要することとなった。

マスクとマイクを着け、距離を取って解説

解説回数と参加者数　(回/人)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
近美ギャラリーツアー	469	517	490	289	266
参加者	1591	1559	1868	982	933
近美団体	45	35	29	1	1
参加者	524	391	679	9	24
三岸解説	210	423	183	0	0
参加者	528	1828	337	0	0
三岸団体	15	18	16	0	0
参加者	162	234	225	0	0

※ぐるっと3館鑑賞ツアーは除く

コロナ禍の中で　　伊黒　順子

この度の原稿を書くにあたり、前号の「あゆみⅧ」を読んでみました。8頁に及ぶ解説部の活動のほとんどが、私が三役を担当したこの2年間は実施できなかったことが分かり、改めて驚きと共に、歴史から消されてしまったような(?)淋しさも感じております。

2020年3月、8名の新入部員を迎え活動準備中に美術館が休館となり、7月中旬までARS、8月まで　解説活動中止。この間部員に忘れられないようにアンケートの実施、新入部員にお便りを書くなど心の準備をお願いしました。

その後、学芸課と協議をし、マスクとマイクを使用し、社会活動の一環として解説、ARSが再開されたときは、人との距離を取りながらでしたが、やはり嬉しいことでした。

その後、社会の色々な場面同様コロナに振り回されましたが、部の大切な活動である「模擬ツアー」や「団体ツアー」も少しずつ復活し、ARSにおきましても今後は学生たちも増え賑わいが戻ってくるでしょう。三岸美術館の作品解説も2年間休みましたが、2022年度から復活の予定と聞いています。

デジタル化が進み人との交流が少なくなる中、解説部の特徴である「対話をしながらの活動」の良さを再度理解し、お互いに切磋琢磨しながら今後とも進んでいきたいと思っています。

＊　解　説　部　＊

■　アート･レファレンス･サービス　■

ここでの第一の仕事は、来館者の質問への対応である。ARS専従部員はもちろん、13時以降は解説担当者も対応している。ARS専従部員は、ポスターの張替えやちらしファイルの入れ替え、図書の整理整頓などの仕事をしつつ、来館者が来た時にはそちらを優先して対応にあたることになっている。

アート･レファアレンス･サービスなので、アート即ち芸術に関する質問にだけ対応しているように思われがちだが、実はそうでもない。下の表でもわかるように、近美の施設に関する質問が断然多い。

場所を聞かれたのは、公衆電話、コインロッカー、飲料水の自販機、ATM、美術館のスタンプ、トイレ、エレベーター等、近隣では、レストラン、郵便ポスト、地下鉄の駅、バス停や時間等で、答えられるように事前に準備はしておく。

コインロッカーのカギが開かない、お金を入れたのにカギがかからないなどのトラブルは、警備の方に連絡して対応していただく。間違えて1円や50円玉を入れていることが多い。

ARS質問ベスト5

	質問内容
1	近美の施設や近隣の情報･両替･忘れ物
2	図録や図書､作家について
3	特別展に関すること
4	他の美術館の情報
5	近美コレクション(常設展)に関すること

ARSにある図録や図書、作家への問い合わせは2番目に多い。近美に収蔵している作家に関しては索引があり、簡単に調べることができるようになっている。有名な作家は全集などで調べられるが、あまり知られていない作家や曖昧な問い合わせの場合は、学芸員の力をお借りする。ARSに所蔵している図書は、道立や市立の美術館で開催された展覧会の図録が主なので、まずはお客様にそれを理解していただいている。

●こんな質問がありました●

･この美術館をデザインした人は？
･大理石の壁は､どうやって貼っているの？
･特別展の展示ケースの中に空調管理機がないのは何故？
･50年以上前に見た札幌市民会館の緞帳は誰の絵？
･東京駅､上野駅周辺の美術館で月曜日に開館している所は？
･スケッチと習作の違いを教えて。
･Wi-Fiを使いたいんだけど。

■　部内研修　■

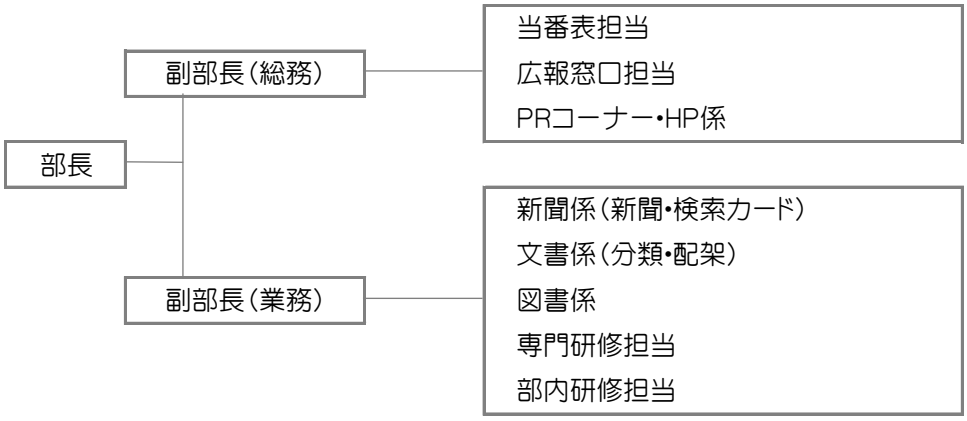
部内研修は、主に次の4つが挙げられる。

・「視覚障がい者対応学習会」
これは、新入部員対象に行われる。
2020～2021年は、コロナでテキスト配布のみの実施となった。
・専門研修の1回目の「学芸講話」
全部員対象で、仕事の再確認の意味も。
・館外研修（右表参照）
技法の見学ができる場所を模索しているが、人数の関係で美術館鑑賞となっている。
・新年特別研修会（右表参照）

年　度	館外学習	新年特別研修会
2017	似鳥美術館鑑賞	講師～中村聖司三岸副館長 「追っかけの悲喜こもごも」
2018	市立小樽美術館鑑賞 講師～新明英仁館長	講師～岡部卓氏(木田美術館学芸員) 「木田金次郎の生涯と作品」
2019	道立文学館鑑賞 光岡幸治学芸主幹	講師～苫名真学芸部長 「ガラスの魅力」
2020	コロナで中止	講師～五十嵐聡美三岸副館長 「アイヌの美しき手仕事」
2021	コロナで中止	講師～地家光二上席専門員 「世界一役に立たない解説のツボ」

＊　資　料　部　＊

■　組織と運営体制　■



■　活動の目的　■

北海道立近代美術館学芸部の調査・研究活動を支え、幅広い層の利用者に多様な学習機会を提供するために必要な二次資料（美術関係資料・情報記録）の収集、整理、保管

■　活動内容　■

○新聞整理

美術館に毎日届く新聞5紙と各種情報紙の中から美術関係記事を一般（永久保存）記事と各種情報（短期保存）記事に分けてマーキングし、切り抜き、台紙に貼付、データを記入し、それぞれファイリングする。さらにファイルした一般（永久保存）記事を人名、館名、展覧会名等で検索するためのカードを作成する。

2021年2月から10月にかけて、新聞記事整理と検索カード作成の方法をまとめたハンドブックを大幅に改訂し、現状に即して使いやすいようアップデートした。

2020、2021年度は新型コロナウイルス感染症による数度の活動休止により新聞整理作業が一時滞ったが、活動再開後、係を中心に部員が協力して短期間で休止期間の分の整理作業を終えることができた。

○文書整理

分類：美術館に届く郵便物のうち美術関係のものを分類、整理する。扱うのは展覧会やイベントのチラシ・はがき・ポスター・招待券、要覧・事業案内・定期刊行物・図録・年報・研究紀要、美術雑誌・図書など多岐に渡る。それらを種類別に分けて、決められた場所に整理し、学芸員に回覧したり、図書整理に回す。

2020、2021年度の新型コロナによる活動休止中は学芸部と協議し、一部の急を要する作業を非常勤職員にお願いしたことで乗り切ることができた。

配架：学芸員に回覧した後の展覧会やイベントのチラシ・はがき、施設要覧、学習用ツールなどを資料として活用するためにバーチカルファイルに収める。

2015～2017年度にバーチカルファイルの整理を大がかりに行い、作家個人名のファイルに優先して収納する方法に変更。その後2年かけてファイルの中身を整理し、2021年度まで微調整を続けながら作業を進めてきたところである。

※資料部のモットー※　「何人でやっても一人の仕事のように　仕事には厳しく仲間には親切に」

＊　資　料　部　＊

○図書整理

主に文書係から回ってきた刊行物を、逐次刊行物として処理するものと図書として受け入れるものに分け、逐次刊行物は登録、回覧したのち所定の場所に配架する。図書として受け入れたものは寄贈先を明記し分類し図書カードを作成し、台帳に登録する。ラベリングなど本の仕上げをして書架に移動できる状態にする。登録台帳と図書カードはパソコン入力し印刷で作成する。

図書整理の仕事には、文書の仕事を経験した部員から希望者を募って2か月ほどかけて研修をした後携わることになっている。また二人一組で正確な作業をするよう心掛けている。

2020～2021年度は新型コロナにより度々活動が休止したが、その間にも全国の美術館・博物館から逐次刊行物や寄贈図書が届いていたため、活動再開後は作業のスピードアップを図り、2021年度末までには遅れを取り戻すことができた。

○専門研修

資料部の活動員を希望する方への研修（学習と実習）が10月から3月まで各担当によって実施される。誰が作業しても均一な質の高い資料作りができるようになるために、4回の学習で新聞整理の基礎を正確に身に付けるための手法を学び、6回の実習を通して学んだ作業手順に従い実際の仕事を体験する。

専門研修は業務担当副部長を中心として新聞係、検索カード係の指導の下、入部1年目の部員が実習を、2年目の部員が学習を担当することで、自らの仕事への理解度を再確認し学び直しをする良い機会となっている。研修は前述の学習と実習に加えて担当学芸員の資料の収集と保存についての講義、現部員との懇談会を行う計12回のカリキュラムとなっている。研修生に資料部の仕事の基礎を身に付けるとともに部の雰囲気を感じてもらい、活動についての疑問や不安を払拭してもらう狙いがある。例年、担当学芸員の講義は研修関係者以外の部員も聴講可とし、懇談会は座談会形式で行っていたが、2020、2021年度は新型コロナ感染症感染対策として、密を避け簡略化した形での開催となった。また2021年度は新型コロナの影響で実習も1回少なくなり、その分は入部後に行うこととした。

○部内研修

毎年1回、美術への知識を深めつつ部員相互の親睦を図るために行っている。

例年、市内や近郊の美術館・博物館の展覧会鑑賞をしているが、新型コロナの影響により2020年度は近代美術館館内での開催、また2021年度は実施を断念した。

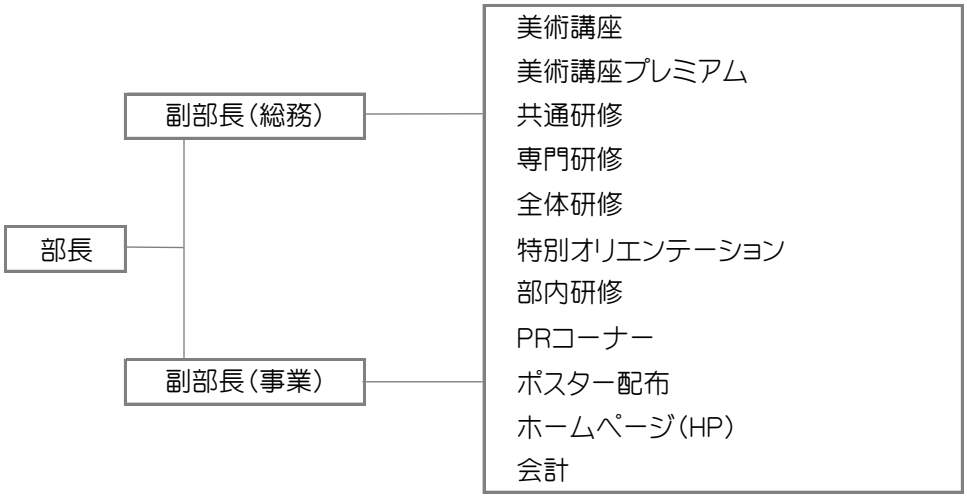
年度	内　容
2017	小樽芸術村
2018	札幌芸術の森美術館「ブリューゲル展」
2019	札幌芸術の森美術館「バルセロナ展」
2020	学芸員講演会（講師:五十嵐聡美氏）
2021	実施せず

新聞整理の作業の様子

部内研修～学芸員の講話を聴く

＊　研　修　部　＊

■　組織と運営体制　■



■　活動の目的　■

広く道民に対し、美術文化に親しむ機会を提供すること。
協力会ボランティア活動員の養成をすること。さらに、協力会ボランティア活動員の資質保持、向上並びに相互理解を深めるための研修を行うこと。

■　活動内容　■

・美術講座の企画、立案、実施
・美術講座プレミアムの企画、立案、実施
・共通・専門研修の企画、実施
　7部合同説明会、ガイダンス実施
　共通研修講座の企画、実施
　7部の専門研修の日程等調整
・専門研修（研修部内）の実施
・全体研修の企画、立案、実施
・特別オリエンテーションの実施
・部内研修の実施

北大総合博物館前で部内研修集合写真

■　美術講座　■

道民を対象に、美術に関する基礎知識を深めることを趣旨として毎年5月～8月に美術講座を開催。
道立近代美術館と道立三岸好太郎美術館の学芸員、外部講師による講座の企画、準備と実施に携わる。
2017年度からは美術講座をボランティア活動員になるための研修から外し、講座の内容も見直したうえ回数を15回から10回に変更した。

○企画・準備

・1月：総務課、学芸課、協力会事務局、研修部で日程等の打合せを実施
・4月：講座日程、講師、講座内容を決定し、受講者募集の掲載を新聞各社に依頼
　　協力会員、公共施設へ配布し、併せて近美、協力会ＨＰに掲載
・5月：申込者に開講日の日程を通知し、開講日までに受講生名簿等を作成

＊　研　修　部　＊

○実施

・開講日に受講料を受領し、当日の資料等を配布
・各講座の1週間前に資料等を準備
・講座当日は会場の準備、受付、資料配布及び司会進行
・講座に対する感想、要望等を取りまとめ、次年度の参考にする
・2020年度、2021年度は新型コロナ感染拡大防止のため中止

2019年度美術講座内容

回	講　座　名
1	萬鉄五郎と棟方志功
2	「東山魁夷　唐招提寺御影堂障壁画展」への招待
3	エミール･ガレ　ー世紀末､アール･ヌーヴォーの魅力
4	ジョルジュ･ルオー　ー20世紀最後の宗教画家
5	家老にして画家､風雅の人　ー蠣崎波響
6	「余､生来､画を好む…」　ー山下りん
7	天才建築家　ガウディの夢
8	エコール･ド･パリの時代にマレヴナという画家がいた！
9	キスリング　ー理想の写実絵画を求めて
10	カラヴァッジョ　ー闇から輝く真実

美術講座受講者データ

年度	応募者	受講者
2017	277	260(-)
2018	195	179(28)
2019	182	170(39)
2020	中止	ー
2021	中止	ー

定員：230人
受講者：( )内ｱﾙﾃﾋﾟｱ会員数

■　美術講座プレミアム　■

幅広い分野の芸術に関し、美術鑑賞や美術史への理解を深める講座として2015年度から開催。
講師陣は大学・博物館・美術館・文学館等の専門家及び芸術家に依頼。テーマも絵画だけでなく多岐にわたる講座内容とし、開催時期と回数は美術講座終了後の9月以降に5回とする。
研修部は講座の企画・準備と実施に携わる。
2020年度から、受講申込を往復はがきの他、ホームページから申込できるようにした。

○企画･準備

・1月：総務課、学芸課、協力会事務局、研修部で日程等の打合せを実施
・7月：講座日程、講師、講座内容を決定し、受講者募集の掲載を新聞各社に依頼
　　協力会員、公共施設へ配布し、併せて近美、協力会ＨＰに掲載
・9月：申込者に開講日の日程を通知し、開講日までに受講生名簿等を作成

○実施

・開講日に受講料を受領し、当日の資料等を配布
・各講座の1週間前に資料等を準備
・講座当日は会場の準備、受付、資料配布及び司会進行
・講座に対する感想、要望等を取りまとめ、次年度の参考にする
・2020年度、2021年度は新型コロナ感染拡大防止のため募集人数を減らして実施

＊　研　修　部　＊

2021年度美術講座プレミアム内容

回	講　座　名	講　師　名
1	『北海道の風土と美術』 ― 有島武郎を入り口に	ライター、エッセイスト 谷口雅春 氏
2	『映画が描く北海道』	北海学園大学教授、北海道芸術学会会長 大石和久 氏
3	『私なりの社会彫刻』	美術家、アートディレクター 端聡 氏
4	『よみがえれ！とこしえの加清純子』	北海道文学館学芸課長 苫名直子 氏
5	『小樽今昔物語』 ― 地域の美術を観光資源に	市立小樽美術館主幹（学芸員） 星田七重 氏

美術講座プレミアム受講者データ（人）

年度	定員	ハ応募者	HP応募者	受講者	アルテピア会員
2017	230	163	―	143	―
2018	230	154	―	136	49
2019	230	169	―	156	59
2020	100	84	46	79	24
2021	100	48	20	43	15

ハ応募者：ハガキからの応募者
（従来からの応募方法）
HP応募者：ＨＰからの応募者
（2020年度より導入）

■　共通・専門研修　■

ボランティア活動の希望者は、共通・専門研修を受講（8割出席）する必要がある。
研修部はこれらの研修の準備と実施に携わる。

○共通研修

共通研修（5回程度）のカリキュラム作成と講師を依頼する。

（１）共通・専門研修生の募集・決定までの手順
・ボランティア活動員募集は協力会事務局が実施
・7部合同説明会・各部ガイダンスの実施
・入部希望受入を7部で調整し、専門研修生決定

（２）実施から終了までの手順
・各講義の1週間前に資料等を準備
・講義当日は会場の準備、受付、資料配布及び司会進行
・終了式に修了書の授与

○専門研修

ボランティア活動を実践するために各部で行うが、研修部は全体の日程調整を行う。
研修部内の専門研修としては部内の活動を理解するために手順・講師（部員）・場所を決めて5回程度実施する。

＊　研　修　部　＊

共通研修カリキュラム

回	講　　座　　名
1	『美術館ボランティアとその学び』
2	『近代美術館への招待』
3	『近代美術館の活動 (1)作品の収集･保管（2)調査･研究』
4	『近代美術館の活動 (3)展覧会の企画と運営』
5	『近代美術館の活動 (4)教育普及』

共通・専門研修生データ（人）

年度	応募者	共通･専門研修生	入部者
2017	20	16	12
2018	33	23	18
2019	31	26	20
2020	18	15	12
2021	20	13	12

専門研修カリキュラム

回	内　　容
1	研修期間中の留意事項
	研修部の活動
	各部屋の使用について
	館内案内
2	美術講座
	美術講座プレミアム
3	共通研修(研修生全員)
	専門研修(研修部)
	PRコーナー
	ポスターの配布
	ホームページ
4	特別オリエンテーション
	全体研修
	部内研修
5	他部との共同の活動
	各種式(式の司会)
	みちしるべ
	研修部活動のしおり

■　全体研修　■

ボランティア活動員の資質向上のため、知識を深め感性を磨き、ボランティア活動の充実をはかるための研修を行う。活動員が一堂に会することにより各部の理解と共通意識を持つ。

前年度の反省・要望をふまえて、協力会、7部及び研修部の提案のもとに研修部が企画・立案・実施。美術に関する講演後、交流会で各部の活動紹介、レクリエーション等で親睦をはかる。2020年度、2021年度は新型コロナ感染拡大防止のため中止となった。

■　特別オリエンテーション　■

ボランティア活動員の基礎知識として館内で開催されている展覧会を知っておくためと、知識向上のための研修を行う。

特別展、近美コレクションの展示替えの度に、実施を学芸課に依頼し、各部へ実施日の連絡をする。当日は会場準備、司会、受付をする。聴講人数、鑑賞人数を把握し、届出部署に報告する。2020年度、2021年度は新型コロナ感染拡大により開催回数が減ったが、開催時には人数制限や観覧券配布により実施した。

■　部内研修　■

知識を向上させ、感性を磨き、親睦を深めることで部内活動を円滑にするための研修を行う。研修先は鑑賞・体験・観察など多方面にわたって検討し決定する。

＊　研　修　部　＊

全体研修実施状況

参加人数･出席率

年度	内容		事業部	広報部	売店部	解説部	資料部	研修部	特活部	合 計
2017	講演会①	部員数	12	15	40	40	35	15	24	181
		参加人数	8	2	27	25	20	11	11	104
		出席率%	67	13	68	63	57	73	46	57
2018	講演会②	部員数	14	12	38	41	32	13	22	172
		参加人数	8	4	27	21	16	12	9	97
		出席率%	57	33	71	51	50	92	41	56
2019	講演会③	部員数	11	14	35	41	34	13	27	175
		参加人数	9	4	19	18	13	10	13	86
		出席率%	82	29	54	44	38	77	48	49
2020	中止	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2021	中止	—	—	—	—	—	—	—	—	—

講演会①：「北海道美術雑史」　地家光二氏

講演会②：「華麗なる衣装、光の不思議な力～」　ブルース･ダーリング氏

講演会③：「アイヌ文化と北海道の未来」　本田優子氏

特別オリエンテーション参加状況（%）

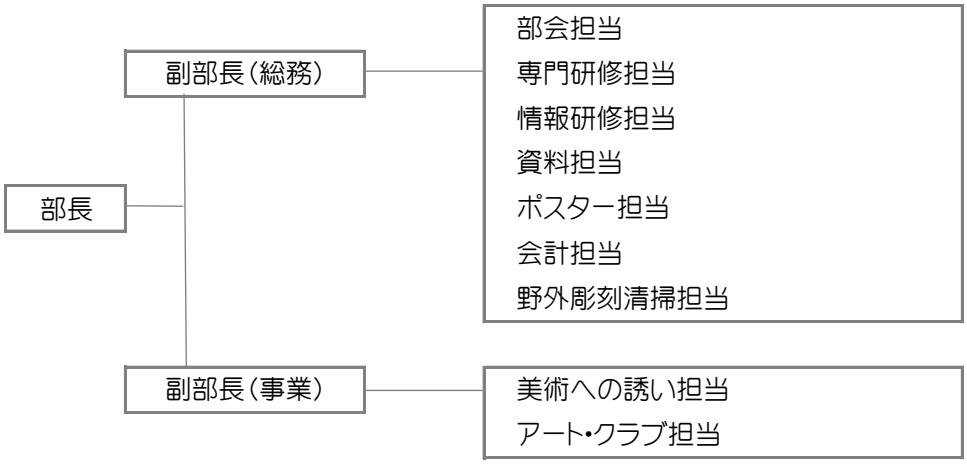
年度	回数		事業部	広報部	売店部	解説部	資料部	研修部	特活部	合　計
2017	3	延出席率	78	31	59	47	65	73	53	57
		延観覧率	39	24	33	32	46	71	43	39
2018	3	延出席率	64	28	57	50	59	87	37	54
		延観覧率	59	19	32	31	32	82	31	37
2019	4	延出席率	44	24	50	45	64	83	35	49
		延観覧率	29	18	30	34	45	67	18	33
2020	4	延出席率	36	30	45	43	53	87	15	43
		延観覧率	34	30	31	28	43	79	14	33
2021	2	延出席率	36	25	38	45	52	58	18	40
		延観覧率	21	25	18	18	41	50	9	23

部内研修実施状況

年度	月	研修先 ・ 研修内容
2017	7	旭川美術館「上村松園・松篁・淳之展」
	10	小樽芸術村（芸術村グランドオープン見学）
2018	8	札幌芸術の森美術館「ブリューゲル展」、同野外美術館
	2	道立近代美術館「近美コレクション名品選」「きらめく都市のものがたり」
2019	8	札幌芸術の森美術館「テオ･ヤンセン展」
	2	道立三岸好太郎美術館（収蔵品）、道立近代美術館（バックヤード）
2020	—	＜新型コロナ感染拡大防止のため中止＞
2021	11	北海道大学総合博物館（館内観覧）

＊ 特 別 活 動 部 ＊

■ 組織と運営体制 ■



■ 活動の目的 ■

地域の方々に身近な存在として、美術と美術館を知っていただくための普及を目的とする。

■ 活動内容 ■

○総 務

・部会担当…月1回の部会の準備、出席者と配布物の管理
・専門研修担当…専門研修生の研修
・情報研修担当…部内研修の企画・実施
・資料担当…電子データの保存、HP/FBの更新、PRコーナーの管理・更新、図書整理、部会議事録作成
・ポスター担当…ポスター配布の仕分け、管理
・会計担当…備品や図書の購入、部費の管理、経費の支払い
・野外彫刻清掃担当…定期的に行われる近美の野外彫刻清掃に携わる

○事 業

・美術への誘い…美術館から外へ出て、開催中の展覧会や近美収蔵作品をはじめとする美術作品のご紹介を行う。依頼があれば区民センターから小さなサークルまで、積極的に出向いて、一人でも多くの方が美術館へ足を運びたいと思ってくださることを目指して活動している。依頼先の希望があれば、材料を調達してワークショップを実施し、美術を身近なものと感じてもらうきっかけを作る普及活動を行っている。

・アート･クラブ…拠点とする道立近代美術館において年に数回、体験型事業として企画・実施している。幼いころから「美術館に来ると楽しいことが待っている」と実感する空間に美術館がなるように工夫を凝らし、美術館の助言もいただき、作り上げる。芸術週間に合わせて募集制のジュニア･アート･クラブを実施し、子供たちの参加を募り美術館で作品展示を行う。
・二つの事業共にリピーターも増え、部員自らが楽しみながら実施、地域と美術を結ぶパイプ役をになっている。

＊ 特 別 活 動 部 ＊

■ 実施記録 ■

○情報研修

・美術館や作家アトリエを訪れる館外研修や美術への誘いにむけて作家やテーマを決めて部員同士で研究発表を行う。
・学芸員や作家を招いての講演会を開催することもある。
・美術への誘いではパソコンを使用、プレゼンテーションのスキルを高める研修も取り入れている。
・コロナ禍のため、2020､2021年は計画通りの研修は行えなかった。

年　度	内　　容	回数/参加数
2017	講演会（道立文学館主任学芸員･苫名直子氏）	1 / 33
	館外研修（小樽芸術村巡り）	1 / 15
	部内研修（美術への誘いで要望のあった作家）	6 / 20
2018	講演会（近美上席学芸員･地家光二氏）	1 / 25
	館外研修（札幌芸術の森美術館）→地震により休館	中止
	部内研修（北海道ゆかりの画家･彫刻家･版画家）	6 / 18
2019	講演会（彫刻家･國松明日香氏）	1 / 42
	館外研修（札幌芸術の森美術館･砂澤ビッキ展）	1 / 17
	部内研修（エコール･ド･パリ）	6 / 42
2020	講演会（新型コロナウイルス流行のため）	中止
	館外研修（　　〃　　）	中止
	部内研修（前年度未発表者のみ少人数で）	2 / 4
2021	新型コロナウイルス感染防止のため	中止

○専門研修

・二大事業である美術への誘いとアート･クラブについて学ぶため実地見学や企画書の作成など例年、10月から3月までの間に10～13回の研修を行う。
・近美を知るために必ず、解説部の協力を得て、ギャラリーツアーを見学している。
・2020年度はコロナ禍により2回、遠方の研修生のため悪天候で1回中止することとなった。研修生に合わせた研修を適宜実施。

2020年度　実施状況

回	カ リ キ ュ ラ ム
1	開講式､オリエンテーション､近美館内案内
2	美術への誘い説明､近美コレクション見学（協力:解説部）
3	美術への誘い実地見学（中央図書館）→中止（コロナ禍）
4	アルテピア紹介､美術への誘い課題説明と出題
5	アルテピア紹介発表､ワークショップ体験
6	近美収蔵作品紹介､PC講習会→悪天候により中止
7	美術への誘い課題発表､PC講習会
8	美術への誘い課題発表
9	ジュニア･アート･クラブ見学→中止（コロナ禍）
10	アート･クラブ課題発表､入部オリエンテーション
予　備	美術への誘い実地見学（平岸地区会館）

○新人研修

・専門研修中に対応できなかったより実際の活動に沿った研修を部員となった新人に対して行う。
・近美の貸室の予約から鍵の借り入れ、美術への誘いのチーム結成から当日までの流れ、アート･クラブでは企画書作成と講師の選び方などより具体的な内容が新人には伝えられる。
・2021年には新人研修という名目では行わず、実際にチームの一員として活動しながらのジョブローテーションを採用。

年　度	回　数	実　　施　　月	研修生
2017	8	4月 5月 6月 7月 8月 11月 3月	1
2018	入部者がいなかったため実施しなかった		
2019	5	4月 5月 8月 9月	6
2020	3	8月 2月 3月	1
2021	4	4月 10月 12月 3月	1

＊ 特 別 活 動 部 ＊

〇アート・クラブ実績

年　度	月　日	事　　業　　名	参加人数	
2017	7/1	A 「あっ、できちゃった！私のきせかえタンブラー」	147	353
	11/4	アルテピア40周年記念 親子アートクラブ 「色とりどりの夢 キンビでばくはつ！！ ～親子で作る流木アート」	53	
	2/17	A 「デコっちゃお！！自分色の時計」	153	
2018	7/14	A 「あらっ！すてき キラキラ光る紙ふうりん」	130	323
	11/3	A 「もふもふを チクチクで ふわふわアート」	107	
	2/16	A 「なに入れる？ どこに貼る？ アートなマグネット缶づくり」	86	
2019	6/22	A 「くねくねワイヤーアート まげて・のばして・変幻自在」	110	226
	11/2	A 「愛す★ぼー★アート」	95	
	2/15	J 「和紙アート　色が織りなす 折りたたみ染め 」	21	
2020	7/29	第1回AC担当者会議	5	21
	9/29	第2回AC担当者会議	4	
	11/17	第3回AC担当者会議	5	
	12/8	専門研修AC説明会	2	
	2/17	オンラインAC担当者会議	5	
2021	10/8	部内研修AC “♀風船張り子”を作ってみましょう	16	16

A：アート・クラブ　　J：ジュニア・アート・クラブ

・ジュニア・アート・クラブからスタートした事業だが、大人がぜひ参加したいという要望が多く、アート・クラブとして時間内ならいつでも来館者が自由に参加できる形とした。毎回、人気が高く、100名分の材料を用意しても足りないことが多くなってきた。
・2017年度のジュニア・アート・クラブはアルテピア発足40周年記念事業として親子アート・クラブとして開催し初めて親子の単位での募集で大きな作品に挑戦した。
・アート・クラブ事業でも新型コロナウイルスの影響は大きく、美術館をはじめ公共機関が休館してしまったことをはじめとして、大勢を集めて行う事業であること、材料を選んでもらい作品を作ること、感染防止対策など課題が山積し、2020年度には1年間かけて活動の在り方を探ることとなった。
・2021年度は次のステップへと進む前に部内でアート・クラブの研修を行った。
・新型コロナウイルスの影響は次ページに挙げる美術への誘い実績表を見ると一目瞭然で、2020年度2021年度ともに前半は依頼先がなく、実施回数が極端に減った。

＊ 特 別 活 動 部 ＊

○美術への誘い実績

表１　実施場所ごとの回数、参加者人数

年 度	区民センターなど	介護予防センター	町内会	病院・学校関係	図書館	合計回数	参加人数
2017	12	4	1	1	1	19	437
2018	11	3	1	0	2	17	377
2019	12	2	1	0	2	17	369
2020	4	1	0	0	0	5	58
2021	6	0	0	0	1	7	113

表2　実施場所と主な内容、参加者人数（2017、18年は紙面上割愛）

年　度	月　日	実　施　場　所	内　　容	参加人数
2019	5/22	創成西英寿会	東山魁夷展、中村善策他	20
	5/29	中央区民センター	東山魁夷展、中村善策、ムンク	17
	6/11	北区民センター	東山魁夷展、モネ、札幌の彫刻	33
	6/18	中央図書館	東山魁夷展、三岸好太郎他	17
	7/4	東区民センター	東山魁夷展、流政之、葛飾北斎	14
	7/11	中央区民センター（生き生き講座）	カラヴァッジョ展、札幌の風景他	47
	7/26	南区民センター	カラヴァッジョ展、ルノワール他	21
	8/6	西区民センター	カラヴァジョ展、ニトリ美術館他	26
	8/8	旭山公園通地区センター	カラヴァッジョ展、神田日勝他	15
	8/27	厚別区民センター	カラヴァッジョ展、砂澤ビッキ他	19
	9/11	厚別南地区センター	ルノワール、おもしろ浮世絵他	12
	9/25	北老人福祉センター	世界の名画、ワークショップ他	21
	11/7	介護予防センターまえだ	坂本直行、砂澤ビッキ他	25
	11/8	藤野地区センター	画家の自画像、ルノワール他	8
	11/26	中央図書館	ユトリロとシュザンヌ・ヴァラドン他	33
	12/4	中央区民センター	神田日勝、ルノワール他	17
	2/21	介護用センター南平岸	神田日勝、ワークショップ他	24
2020	9/2	旭山公園通地区センター	三岸好太郎、浮世絵他	3
	9/15	北区民センター	神田日勝、ユトリロ、葛飾北斎	17
	10/20	西区民センター	片岡球子、ユトリロ他	16
	11/4	藤野地区センター	三岸好太郎他	11
	3/19	介護予防センター南平岸	葛飾北斎、世界の名画10選	11
2021	10/7	厚別区民センター	正倉院展、印象派の画家たち他	4
	10/14	北区民センター	正倉院展、歌川広重他	13
	10/20	中央区民センター	正倉院展、札幌の風景他	20
	11/19	藤野地区センター	神田日勝、ゴッホ他	13
	12/7	中央図書館	歌川広重、印象派の画家たち他	33
	12/8	西区民センター	三岸好太郎、怖い絵他	11
	3/23	東区民センター	ガラス工芸、木田金次郎、ゴッホ	19

略　年　表

2017(H29)年～2021(R3)年

年　度	月	活　　動
2017 (H29)	4	ボランティア活動員になるための研修のうち、美術講座の受講をはずす 近美解説及びARS業務の日曜日を廃止し、火から土曜日まで(解) ARS業務の終了時刻を16時から15時までに変更(解)
	5	40周年事業　「秋田・青森美術館と郷土に触れる4日間」美術研修旅行(事)
	7	会員募集キャンペーン(のみの市)
	8	近美40周年式典において協力会に感謝状の授与 第17回ボランティア交流会(帯広)
	9	40周年事業　会員募集キャンペーン(チラシ配り)
	11	〃　池澤夏樹氏による記念講演 〃　彫刻家ダム・ダン・ライ氏による親子アート・クラブ(特) 〃　COTOHA(コトハ)によるピアノと声楽のロビーコンサート 〃　「図録のみの市」 〃　「ガンバレ！九州 熊本・大分・福岡5日間」美術研修旅行(事) 近美特別展「近美と協力会の40年」
	1	40周年事業　会報「アルテピア」40周年特別号発行(広) 「美術館とともにⅧ」発行(広)
	3	バーチカルファイル資料整理作業終了(資)
2018 (H30)	4	三岸好太郎美術館の解説の日曜日を廃止し、火から土曜日まで(解)
	5	40周年事業　「道南、4都物語」美術研修旅行(事)
	7	会員募集キャンペーン(チラシ配り)
	11	会員募集キャンペーン(チラシ配り・のみの市)
2019 (R1)	4	HPリニューアル
	7	会員募集キャンペーン(チラシ配り)
	8	第18回ボランティア交流会(釧路)
	11	会員募集キャンペーン(チラシ配り・のみの市)
2020 (R2)	4	PRコーナーパネル位置移動(広)
	6	「みちしるべ」改訂版発行(研)
	7	定時総会開催(つどい中止)
	8	美術講座・美術講座プレミアム、HPからも申し込み可能(研)
	10	ハンドブック(新聞記事の整理・資料編)改訂版配布(資)
2021 (R3)	6	定時総会開催(つどい中止)

※2020年、2021年はコロナ禍でボランティアの活動が大きく制限された年となった

美術館とともに　ボランティア活動5年間のあゆみⅨ

発　行　2022年　10月

発行者　(一社) 北海道美術館協力会　060-0003　札幌市中央区北3条西18丁目2-7新田ビル

TEL/FAX　011-644-4025　Eメール　artepia@artepia.or.jp　ホームページ　http://www.artepia.or.jp

編集委員　田辺恭子　菅野洋子　森弘美　臼井敬子　定政みち子　富岡美香　髙橋紀夫　髙橋淑子

印　刷　アクセア